

中央材料室この一年

手術室兼中央材料室看護科長 鈴木 多恵子

中央材料室は安全面と接遇面を重視し、平成15年の年間目標を、昨年と同様に下記のように掲げた。

- 1) 安全で安心な滅菌物を提供する
- 2) いつも笑顔で対応する
- 3) 挨拶は必ずする
- 4) 報告・連絡・相談をしっかりとる

中央材料室は常に、安心の出来る物品をいかに効率良く、各部署に提供できるかを考え、最終的には看護師が患者様へ、より良い看護を提供していくための、サポート役として業務を行っていると言える。又、そのようにサポート役をするには、各部署とのコミュニケーションが保たれるよう、言葉使いに注意し、挨拶は欠かさず自分から声をかけるように心掛けた。しかし、実際に出来ていたかは不安であり、今後も継続していく目標と考える。

人事については、12月1日より科長が手術室の科長を兼務する異動があり、同時に係長が1名、中央材料室に配属となった。

動向については、超音波自動洗浄機が老朽化により、新しい機種に変更された。以前の洗浄機より容量が大きく、洗浄剤も自動でセットされ、業務の効率化が図れた。それに伴い8月から、各部署の使用済み物品を回収に行く業務を、実施することにした。施行期間として外来部門と2階西病棟から始め、9月17日からは第1病棟・第2病棟・3階西病棟を除く、各部署へ回収に行った。始めは慣れないため、時間もかかり午前の業務に、支障をきたすのではないかと不安だったが、行っていくうちに無駄な作業行動がなくなり、回収時間も短縮された。今までヘルパーの方が搬送

してくるのを、待っていた受身姿勢ではなく、自分たちが現場へ行くほうが、スムーズに業務が行えることも分かった。又、各部署に出向くことで、現場の物品の在庫状況や保管管理の仕方が見え、私たちがもっと物品保管の大切さや滅菌物に対しての、意識付けの啓蒙活動を、していかなければならないと再認識した。

研修や勉強会はあまり充実していません、なかなか実施することができなかったが、10月に物品が、どのような工程で滅菌されていくのか、実際にビデオを見ながら勉強したが、安全安心な物品は滅菌機だけに頼るのではなく、確実な器械洗浄やゆとりのある包装・シールの仕方も、重要であることを学んだ。今後も新しい情報を、勉強会に取り入れ、自分自身の知識にしたり、業務改善への資料にしていく。

滅菌機の稼働状況は表Iに示したが、稼働回数は昨年と横ばい状態である。オートクレーブ稼働の滅菌物は、手術室から下ろされる物品が、半数を占めている。手術衣や覆布の大きなカスト類、ガス滅菌機に入るチューブ・メス・鉗子類は、毎日で減少することはない。又、各部署で使用したセット類の滅菌も多いが、使用してくる物品は何点かで、他の物品は無駄な滅菌をしていると言える。

来年にむけて、セット類の簡素化への見直しと、各部署の在庫物品の確認をする。手術室と中央材料室の科長を、兼務したことで、2部署を1部署として考え、ガス滅菌機を最小限稼働し、ステラッドを有効利用、効率的な滅菌業務を実施する。感染防止安全を念頭に、ガラスシリンジや穴あき敷布・万能つぼのディスボ化見直しを、課題にして取り組んでいく。

表I 【滅菌機稼働回数状況】

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
オートクレーブⅠ	106 (100)	95 (97)	108 (106)	105 (102)	97 (113)	102 (97)	106 (111)	101 (104)	102 (106)	96 (104)	88 (104)	106 (114)	1210 (1256)
オートクレーブⅡ	102 (102)	103 (94)	102 (102)	104 (98)	110 (111)	106 (101)	117 (113)	107 (103)	109 (98)	117 (109)	96 (100)	108 (109)	1279 (1238)
ガス滅菌機	20 (19)	19 (19)	20 (20)	21 (22)	21 (22)	22 (21)	22 (23)	22 (22)	20 (19)	22 (22)	19 (20)	20 (20)	248 (249)

()の中の数字は平成14年のデータです